

大相撲もいずれネットフリでしか見られなくなるのか？



スポーツコンテンツの有料化がどんどん進んでいます。サッカーW 杯予選のアウェーゲームが地上波で見られなかったのは記憶に新しいところ。また、来年の WBC もネットフリックス独占放映になるようです。スポーツの価値はうなぎのぼりで、貪欲に利益を追求する流れは待たなしです。そんな流れに、日本の誇る格闘技、大相撲は乗れるでしょうか？ あるいは、乗るべきでしょうか？

そんな思考実験が今回のテーマです。下記の5つの団体・リーグのビジネスモデルを比較分析したうえで、ビジネスとしての大相撲の将来を考えたいと思います。

① 大相撲 ②日本プロ野球 ③Jリーグ ④米国大リーグ ⑤英国プレミアリーグ(サッカー)

まずは、団体・リーグ全体、および主要なチームの決算情報などを確認し、どのような収支構造になっているのかを分析します。さらに、それぞれの動向や事業計画から、ビジネスの方向性を概観します。

ちなみに、令和 6 年度の日本相撲協会の資産総額は 367 億円、経常収益(売上高)は 147 億円でした。力士は番付別に給料が定められ、他の競技に見られるような年俸の高騰とは無縁です。上部団体(=日本相撲協会)が中央集権的にビジネスをコントロールする仕組みですが、プロ野球のように、もっと各チーム(=相撲部屋)の自主性に任すべきではないかという議論もあるでしょう。

相撲を題材にしたネットフリックス作品『サンクチュアリ -聖域-』が世界的に人気を博し、相撲パフォーマンスが見られる訪日外国人向けのレストランも活況です。つい最近行われた 10 月のロンドン公演も大盛況でした。グローバルな視点を持つと、まだまだ収益機会はあるようですが、一方で伝統的な神事の要素も無視できません。

今年最後の勉強会です。プロスポーツにまつわる雑学を拾いながら、大相撲の将来像について、ワイワイと語り合いたいと思います。

日時 2025年12月6日(土)
14時30分 ~17時45分
(終了後、リアル参加の有志で懇親会を予定しています)

場所 リアル会場：大阪府大阪市北区曽根崎新地 2-2-16
関電不動産西梅田ビル 9 階
アットビジネスセンター大阪梅田 908 号室

人数 20 名程度
会費 3,000 円 ※Paypal でのお支払いにご協力をお願いします
お申込み <http://www.zeta-consulting.jp/>
主催 ゼータコンサルティング株式会社

